

やまとの名品 天理図書館



大福帳

水木要太郎著

明治39(1906)年～昭和10(1935)年

308冊 縦11.6cm 横15.8cm

明治から昭和初期にかけて活躍し、「大和の生き字引」とよばれるほど大和の歴史・地誌に詳しい人物がいましたが、みなさんはご存じでしょうか。

その名を、水木要太郎（一八六五～一九三八）といい、明治二十三（一八九〇）年に奈良県尋常師範学校に赴任して以降、大和に関する地誌・教科書を多く執筆しました。

水木は日頃から「大福帳」を持ち歩き、こまめに色々なことを書き留めました。その冊数は、現存するだけで三五〇冊以上（うち、当館所蔵資料は三〇八冊）にもおよびます。「大福帳」を紐解くと、水木の交友関係や

水木が見た情緒あふれる風景が手に取るように見えてきます。そのなかのほんの一部をご紹介しますましよう。

掲出の見開き冊子の下の絵は、著名な歴史学者であった東京帝国大学教授黒板勝美の肖像画。右

下の挿絵は、奈良女子高等師範学校（現奈良女子大学）を卒業したばかりの小倉遊亀が、後に師となる安田靱彦の「聖徳太子図」を模写したもの。水木が、学者や芸術家と頻繁に交流していたことがうかがえます。そのほかに、古文書・古瓦の模写や旅先の風景を描いたページも多



く、ときどき当時の乗車券・切手・写真が挟み込まれています。「大福帳」は、近代を生きた文化人水木要太郎の視点から、文化人ネットワークや当時の風俗がうかがえる貴重な歴史遺産といえます。

（天理図書館 澤井廣次）

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○7月の休館日: 31日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）